佳作

言語で繋がる世界

愛知県 愛知県立岡崎北高等学校一年　今井 雫月

「言語は大事だよ。」
「言語はしっかりと勉強するんだよ。」
母も祖母も口を揃えて言う。また始まった。
「はいはい、わかっているよ。勉強すれば、いつかは英語だってペラペラに話せるようになれるって。でも、今は他の宿題があるから、まずはそっちが先。」
私は、いつも母たちの会話を適当に聞き流し、言語の大切さを強く実感したことはなかった。母や祖母は、外国に長く住んでいたから、言語が大事だったかもしれない。でも、私はきっと日本でずっと生きていくから、日本語しか話せなくても問題なし。そして、いざというときは、グーグル翻訳様が助けてくれるし。
そんな言い訳を心の中で繰り返していたある日、母は私に言った。
「よし、今年の夏は、お父さんが住んでいるフランスとイギリスにも行こう。」
それを聞いた私は、ワクワクが止まらなかった。一度でいいから、海外に行ってみたいという思いがあったからだ。それに、フランス語は話せないけれど、授業で習っている英語で簡単なことはなんとかなるだろうとそのときは思っていた。
しかし、現実はそう甘くなかった。フランスで城を見学した後、おやつを食べようということになり、父と母が買いに行っている間、私と弟で四人掛けのテーブルを探した。しかし、テーブルはほぼ満席で、人がいないテーブルがあっても、前の人の食器が片付けられていない状態だった。
「どうしよう、離れて座るしかないかな。」
と弟と話していると、店員さんが来て、なにやら私たちにフランス語で話しかけてくれた。しかし、私も弟も理解することができず、
「Sorry, we can't speak French.」
とただ一言しか話すことが出来なかった。それでも、店員さんが状況を察してくれて、人がいない席を片付けてくれた。その光景を呆然と見ていることしかできなかった私は、店員さんが手際よく片付けを済ませ、店の奥に行ってしまってから、お礼を伝えることさえできなかったことに後悔した。店員さんの言葉は短く、難しそうな内容でなかったのに、その一言も理解できず、ましてやお礼を言う機会も逃してしまった自分に悔しさが募った。私にあと少しでも言語能力があれば…。このとき初めて、言語は大切だと、もっと話せるようになりたいと強く実感した。
このときから、自分にも使える言葉を積極的に使うように意識した。「こんにちは」や「ありがとう」しか言うことができなくても、相手に通じて返事をしてもらえるだけで、心が満たされていく感じがした。
また、ロンドンのホテルの朝食で、自分の入れてほしい具をシェフに伝えて、オムレツを焼いてもらうというサービスがあった。父が、
「いい機会だから、自分で注文してみたら。」
と言ったので、オムレツを注文してみることにした。本場の英語は聞き取りにくく、また自分の発音で通じるのか非常に緊張した。ドキドキしながら、
「I'd like a cheese omelette.」
と伝えてみると、
「OK.Thank you.」
と返してくれて、オムレツを作ってくれた。単純な会話でしかなかったけれど、自分が発した発音で、相手に自分の思いを理解してもらえたことが、とても嬉しく感じられた。同時に、もっと難しい内容も伝えられるぐらいに英語を上達させたい、また、他の言語も使えるようになりたいという思いも膨らんだ。
フランス、イギリス、ベルギーを旅行し、フランスから出国する日、出国印を押してもらっているとき、出国審査をしてくれた人が、
「こんにちは。」
と日本語で挨拶してくれた。パスポートを見て、日本人だと気付いたのだろう。日本語は英語やフランス語と違い、世界中で通じるわけではないのに、日本語を知ってくれているということにとても感動し、私は迷わず、
「こんにちは。」
と返した。出国直前にとても心が温まる思い出ができたと思った。そして、そのとき再び、私も同じように、他の言語で他国の人たちともっと話したいと思った。
外国に行ってみて、私が学んだことは、やはり言語は非常に大事だということだ。習得するだけでなく、それを積極的に使い、相手とコミュニケーションを図ることがとても大切だ。いつかは、翻訳機の性能がさらによくなり、今よりも言語を勉強する必要性は下がってくるかもしれない。しかし、自分の思いを自分の言葉で伝えられる喜び、世界中の人たちと直接関わり、考えを共有し合う喜びを感じるには、自分の言葉で伝えることが必要不可欠だろう。たくさん間違うかもしれないが、これから私は、積極的に話す努力をしたいと思う。自分の世界を広げるために。